

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。〔15番 田原 実君登壇〕

○15番（田原 実君）

おはようございます。創生クラブ所属、田原 実です。平成15年の旧糸魚川市議会から数えて、今回で90回目の一般質問となります。

以下、通告書に基づき質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

質問1、糸魚川市における持続可能な地域医療体制のための行政支援について。

上越医療圏域は、令和3年12月に国の重点支援区域に選定され、県が中心となって、持続可能な地域医療体制に向け、医療機関の機能再編や連携などが検討されてきましたが、既に4年を経過してもその成果や今後の医療体制の姿が見えてきません。

人口減少と高齢化が急速に進展する当市においては、糸魚川総合病院の機能と病床の確保、開業医の減少によるかかりつけ医の確保など、待ったなしの課題に直面しています。

本来、地域医療は、県や行政が体制を調整し、医師会や病院と連携・協力して地域の医療を提供するものです。これらの現状と課題を踏まえ、市として地域医療をどのような気概で支え、安心して生活することができる糸魚川市を維持しようとしているのでしょうか。

これまでの私の一般質問や市長との地区懇談会での市長答弁を参考に以下質問し、提言します。

- (1) 糸魚川市にふさわしい医療体制を医師会、病院、行政が一体となって構築する、いわゆる糸魚川市地域医療構想の検討と実現に取り組むべきだと考えますがいかがですか、伺います。
- (2) 高齢化の進展、開業医の高齢化による廃業が想定される中、糸魚川総合病院においても、かかりつけ医機能を果たすよう期待されますが、いかがですか。また、医師会や病院へのオンライン診療の導入が課題解決の方法の一つと考えますが、県や市で主体的に地域医療全体を見渡す中で整備することはいかがですか、伺います。
- (3) 県による地域医療構想で、高度医療は大きな病院へ集約されるのはやむを得ないことですが、糸魚川市の地理的条件、交通アクセスなどを踏まえ、救急医療、災害医療、人工透析など命に関わる医療の維持は不可欠です。このため、糸魚川総合病院とアグリよしだ病院の病院機能をどの程度維持・存続することが必要と考えますか。また、そのための支援をどうするのか伺います。
- (4) 当市の医療において、中核となる糸魚川総合病院は赤字経営が続いており、この状況が続いた場合には救急機能の縮小、病床や診療科の削減を図り、黒字化しなければ病院の存続は困難とお聞きしています。ただ、既に市は救急確保対策、医師確保対策、救急告示病院運営支援、産科医療支援などの支援をしています。その財源の一部には特別交付税を充当していると考えますが、公的病院から公立病院へ転換した場合に、より多くの普通交付税が見込め

ます。現在どの程度の金額の特別交付税が交付され、また、公立病院にした場合、どの程度の普通交付税と特別交付税が見込めるのか伺います。

- (5) 当市のような僻地医療を守ろうとした場合に病院の経営は赤字を強いられますが、必要な医療は維持する必要があります。交付税を有効に活用して病院の存続を図ることが一つの方法と考えますがいかがですか、市長のお考えを伺います。

質問2、市長マニフェスト縮充のまちづくり、市民の声を聞くまちづくりの推進について。

- (1) 市長の政策を市民に伝え意見を聞く市内13か所の地区懇談会での市民意見と行政対応について伺います。
- (2) 4月の市長選挙のほかの候補者のマニフェストは、女性ならではの意見、議員としての意見、支持者の方たちの思いが込められています。久保田市政にどう取り込んでいきますか伺います。
- (3) (仮称) 駅北子育て支援複合施設建設計画を見直し、建設費約12億4,000万円の箱物建設を中止、運営費年間5,000万円を10年間で5億円の支出を中止した影響について伺います。あわせて計画をそのまま進めた場合に起こり得る状況認識について伺います。
- (4) 教育長が市民ニーズがあると議会で説明した面積450平方メートルの屋内遊戯施設、これに代わるものとして久保田市長が考えた施設の規模や立地について伺います。
- (5) 新年度(令和8年度)予算編成に向けて見直すべき事業について、9月定例会決算審査での会派の賛成討論を基に、以下伺います。
- ① 職員数と人件費総額の縮充。
 - ② 公共施設等の維持管理と受益者負担。
 - ③ 市から支出のある協会、協議会等の大幅な体制見直しの必要性。
 - ④ 観光関連事業への支出と持続。
 - ⑤ ジオパーク戦略プロジェクト実施計画の見直し。
 - ⑥ 公共交通、えちごトキめき鉄道、大糸線、バスの必要性和持続。
 - ⑦ 行政改革、予算主義から決算主義への転換と職員の意識改革。

質問3、全国の先進事例に学び、糸魚川市が先進地となるまちづくりの推進について。

- (1) 糸魚川市の姉妹都市や交流都市の取組に大変優れたものがあります。長野県塩尻市、島根県浜田市(旧金城町)の事例を議会で私から紹介してきましたが、第4次総合計画策定の参考に再度調査研究すべきと考えます。市長のお考えを伺います。
- (2) 久保田市長が糸魚川市の参考としたいと考える全国の先進事例は、どこのものでどのようなものか、またその理由について伺います。
- (3) 会派創生クラブでは、11月に岩手県紫波町と葛巻町を訪れ、政務調査を行いました。紫波町の補助金に極力頼らない公民連携のまちづくりとして、視察の聖地となった「オガールプロジェクト」と、歴史ある市街地の一角に位置する旧役場庁舎跡地のサウナ温浴複合施設「ひづめゆ」は、久保田市長の言う糸魚川再生の要素「宿場町」とまちのにぎわいづくりに、また、葛巻町の県立高校の山村留学は、これからの糸魚川市への留学制度の充実に役立つ具体例と思います。いずれも地方創生2.0を先取りした事例といえますが、この点、久保田市長のマニフェストや施政方針説明での様々なプロジェクトを実現する過程で、マンネリと

硬直から脱却し、関係人口、活動人口を増やし、糸魚川市を新しく楽しいまちへと再生して
いただきたいと思います。市長の見解を伺います。

以上、通告書により1回目の質問です。よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

改めまして、おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、県の地域医療構想に基づく医療再編の議論と並行して、当市の医療体制の現状や地域特性を踏まえた将来像の整理は必要であり、その実現に向け、市医師会、病院と連携し、安全・安心な医療提供体制の維持に取り組んでまいります。

2点目につきましては、開業医の高齢化や医師の減少が進む中、糸魚川総合病院における、かかりつけ医機能の強化とオンライン診療の導入は必要であると認識しており、都内大学病院との協議を進めながら、市民の皆様が安心して医療を受けられる体制の構築に取り組んでまいります。

3点目につきましては、当市の地理的条件から、糸魚川総合病院とアグリよしだ病院における、現在の診療機能は維持していく必要があると考えており、国・県からの対応も強く求めながら、必要な支援を行ってまいります。

4点目につきましては、6年度の特別交付税額は約1億4,400万円であります。

また、公立病院にした場合につきましては、交付基準など諸条件を6年度と同等と仮定すると、普通交付税は約1億9,300万円、特別交付税は約9,500万円の交付が見込まれます。

5点目につきましては、地方交付税をはじめ、活用可能な財源を最大限確保するとともに、国・県からの継続的な対応も求めながら、病院への必要な支援を行い、現在の診療機能を持続できるよう取り組んでまいります。

2番目の1点目につきましては、各会場でお寄せいただきました声は、地域の実情を捉えた貴重なご意見であり、今後の事業計画や新年度予算を編成する際に生かしてまいります。ご意見の中には、すぐに取り組めるもの、調整を要するものなど様々ですが、可能なものから前に進めていきたいと考えております。

2点目につきましては、様々な視点は、これからのまちづくりを考える上で大切なものと考えております。今後も、幅広く皆様のご意見を伺いながら、市政運営を行ってまいります。

3点目につきましては、整備計画の見直しにより、整備費や運営費を低減する方向で検討しております。

また、当初計画を進めた場合にも、物価高騰による建設費増額や規模縮小も想定されると考えております。

4点目につきましては、屋内遊戯場については、既存施設を活用する方針で進めており、当初計画の約450平方メートルを目指し、駅北に限定せず、候補地を選定しております。

5点目の1つ目と7つ目につきましては、多様化・複雑化する市民ニーズにスピーディーに対応するための職員数は必要であり、職員が知恵を出し、事務の効率化による経費の削減に努めながら、

効果的な行政運営に努めてまいります。

2つ目につきましては、施設の適正配置による維持管理費の縮減を図るとともに、受益者負担の原則に基づいて、定期的の使用料の見直しを行ってまいります。

3つ目につきましては、各種団体において、助成金等への過度な依存を避け、事業収入の確保やコスト削減など、財政基盤の強化・安定化を図り、持続可能な運営体制の見直しを図ってもらう必要があると考えております。

4つ目につきましては、持続可能な観光地域づくりを行うに当たり、地域にとって今後も必要な事業かどうかを判断する段階にあると考えております。市が多額の費用を負担している事業については、随時、在り方を含めた検討を行ってまいります。

5つ目につきましては、現在進めている糸魚川ジオパーク協議会の組織体制見直しに合わせ、新たな実施計画の策定に取り組んでまいります。

6つ目につきましては、地域公共交通は、市民生活において必要不可欠な社会インフラだと認識しており、引き続き、持続可能な公共交通を確保できるよう、取り組んでまいります。

3番目につきましては、他の自治体の先進的な事例を学ぶことは重要であると考えております。

ご紹介いただきました自治体においては、地域の実情に合わせた、特色のある取組を進められており、当市にとっても参考になる点が多いことから、今後も、様々な事例を参考にしながら、糸魚川ならではの資源を磨き上げ、関係人口や活動人口の拡大につなげてまいります。そのためには、市民の皆様との対話を重ね、柔軟な発想で地域の活力を生み出してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

では、持続可能な地域医療体制の再質問です。

何名かの議員の質問にありました13か所の市長との地区懇談会においては、糸魚川の地域医療体制や市内の基幹病院についての苦情、不満、あるいは不安とか、市民の声、どういったものがありましたか、まず、お聞かせください。

私は6会場に出向きましたが、どの会場でも久保田市長自らマニフェストの重点施策、とりわけ医療と福祉の充実について説明しておられる姿は、市民の安心につながるものと感じました。

ただ、そうは言っても医療の危機的状況は喫緊の課題ですし、医療に関しては、市長が言われるところの納得解の形は、まだまだ手探りの状態と思います。この点、市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

今回の懇談会については、本当に様々なご意見を頂戴いたしました。特に医療関係については、

少子高齢化、特に高齢化が進む糸魚川市にあって、非常に厳しい問題だというふうに理解をしながら、ご意見を拝聴させていただいたと思っております。

さらに、糸魚川病院、アグリよしだ病院、また、市医師会、開業医、それぞれの今後も見据えた対策については、今にプラスした医局の導入を図ることが必要であると。新潟大学病院、富山大学病院、また、先ほど答弁で申しましたように都内の大学病院等の協議を重ねながら、今糸魚川市に必要な治療の在り方について模索をしていきたいと。

市の医師会との懇談について言えば、やっぱり身近なかかりつけ医の体制の維持について、何らかの手だてを取ってほしい。そのためのオンライン診療の在り方について、今後、検討を深めていただきたいという声も聞きましたので、そういう形で、手探りの状態ではありますけれども地域医療の充実については、喫緊の課題だと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

私のテーマは、糸魚川の基幹病院の経営と存続についてです。いつもそのことを考えています。1年前は、糸魚川法人会の公開講演会に出席して、新潟県福祉保健部地域医療政策課職員と糸魚川総合病院病院長、山岸先生からお話を伺いました。その中で、上越圏域においては上越や妙高と比較して、糸魚川の状況がかなり厳しいことを山岸病院長が訴えておられました。そのときの資料です。

その後、1年がたちましたが、状況はよくなりましたか。県の対応はいかがですか。富山県の病院にお世話になっていますが、私たちは新潟県民なんですよ。この点、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

おはようございます。

お答えいたします。

まず、1年間で変化があったかということですが、あまり状況は変わっておりません。引き続き、病院経営は厳しい状況でございますし、医療人材の確保というのが非常に大きな課題となっている現状でございます。

県の対応につきましては、県のほうで医師の養成という部分では、大学の地域枠を多く設けて、医師の養成に頑張らせていただいておりますが、問題の地域医療構想につきましては、中核病院の議論が一向に進まず、1年先送りしたままですが、これまでも会議が開催されていないというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

心配ですよ。確かに上越3市の中の病院が連携してこそ糸魚川の医療体制、救急医療体制の保持ということは理解しますが、それを建前にして先延ばしされて、市民の助かる命が助からないのが一番困ります。そうですよね。

令和8年度の予算編成もあります。まずは救急医療の体制保持への支出はどのくらい、2年先、5年先、10年先の見通しと対応について教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まず、救急医療体制に対する予算、令和8年度予算ということでございますが、今、予算編成中でございますので、具体的な数字はちょっと申し上げられません。ですが、これまでと同様の救急医療体制を維持するための予算は確保してまいりたいというふうに考えております。

それと、2年、5年、10年先の医療ということでございますが、2年先につきましては、今地域医療構想が進められていく中で、厚生連病院に対して、県と我々病院所在市で緊急的な支援を実施しておりますので、2年先は現状とあまり変わらないで推移していくと思われま。5年、10年先につきましては、地域医療構想が進められていく中で、もっとも医療人材の確保が大きな課題になってきて、そこに大きな力を使っていかなければいけないというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

具体例を挙げて伺います。

人工透析を必要とする市内の患者さんはどのくらいおられますか。

また今後、どのような状況になっていくと予想されますか。

市内での治療が厳しい場合に、そのことをどう伝えて、どのような対応を取って、市民、患者を救おうとお考えですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

人工透析につきましては、現在、糸魚川総合病院で診ておられる患者さんは75名ほどというふうにお聞きしております。これ、11月の2日の地域医療フォーラムの際に腎臓内科の先生からお

聞きしたものでございますので、ほぼ変わらない数字だというふうに思っております。

それで、今後についてですけれども、人工透析を受けられてる患者さんは、1回当たり3時間から5時間、個人差があるようなんですけれども時間がかかるということと、週に3回透析を行わなければいけないということから、地域医療構想の議論を始めたときから、地元の病院でその患者さんを診るというのが上越圏域の中でも大前提になっておりますので、この患者さんが、糸魚川総合病院で皆さん透析を受けられるという体制は、必ず確保していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

基幹病院の経営と存続についての最後の質問です。

繰り返しますが、久保田市長の医療体制づくりの考え、具体的なものとして、あることへの市民理解は進んだと感じています。後は国からの地域医療存続への予算対応がどうなっていくかというところです。これまでのしがらみを切った現政権において大いに期待するものですが、その見通しについて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

令和8年度に診療報酬の改定が予定されています。それも、この年内中ぐらいには、ある程度方向性が示されてくると思いますが、それを待たずに今国会で大規模な補正予算の案が今示されておりました、来週あたり審議され、可決されるのではないかというふうに思っておりますが、それに大いに期待をしたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

国からの医療への支援、糸魚川市にとってもよい方向になるというふうに受け止めました。昨年の例で言えば、医療への支援パッケージと同じと考えてよろしいのでしょうか、その辺り少し具体的に教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

まだ成立したわけではないので、今示されている案というレベルでお答えをさせていただきたいと思いますが、昨年度は、比較的ある特定の病院に、ある特定の機能を有する病院に支援が入っておった医療パッケージだったというふうに認識しておりますが、今年度、今示されている医療、介護における支援パッケージというものは、医療の部分については、各病院の病床数に応じてであったり、救急車の受入れ台数による支援だったりというようなものが盛り込まれておりますので、病院というのは病床を有しておりますので、全ての病院に支援が行き渡るものというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

糸魚川の医療確保は、相変わらずの一年一年の綱渡り、そういった中でも、久保田市長の強いリーダーシップで医療体制が構築されていることが市民の切なる願いです。よろしく願いいたします。

では質問2、市長マニフェスト縮充のまちづくり、市民の声を聞くまちづくり、再質問でございます。

私が出席した懇談会では、（仮称）駅北子育て支援複合施設建設計画を見直して、建設中止は賛成との声を聞きました。逆に、建設すべきとの市民の声はあったのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

懇談会の中では、委員おっしゃるとおり、まず、子育て支援複合施設に関するご意見自体は、やはり多くはなかったというふうに認識しております。そういった中で様々なご意見をいただいたというふうに思っておりますけれども、議員おっしゃられるとおり、見直しに賛成といった意見は複数ございました。

また一方で、子育て支援複合施設の建設を楽しみにしていた。中止になってがっかりしたといったご意見もいただいております。

また、これとは別にといいますか、屋外の遊び場といった点につきましても、屋外の遊び場がなく困っているといったようなご意見も懇談会の中で一部出ておまして、そのときにご意見くださった方と同一の方かと思うんですけれども、改めて市長へのお便りというような形でご意見直通便のほうで、町なかに小学生や親子が気軽に遊べる場所をつくってくださいといったようなご意見もいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

皆さんの声をしっかり聞いてください。

4月の市長選挙のマニフェストを私が確認したところ、久保田郁夫氏は、建設の見直しをして、市民の声にさらに耳を傾け、駅北にふさわしい充実した施設について再検討を行うとあり、現在議会では、特別委員会を設置して、市長による代替案を検証しています。

1人の方は、施設は見直しし、まずは解体から、そして市民参加型で方向性を決定。また、空き地・空き店舗を生かしたまちの軸再生とあります。

もう一人の方は、推進とも見直しとも記載がありません。計画を推進と書かれた方はいましたか。選挙公報を確認していただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

改めまして選挙公報を確認させていただきましたが、計画を推進しますと明記された方は、確認はできませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

そのようなことで、久保田市長が当選されました。これが民意です。

今回の一般質問で、利根川議員、保坂議員、田中議員、古畑議員、池田議員、東野議員、渡辺議員、田原洋子議員、田原 実の9名が取り上げております。

ただ、市民はどうお考えなのでしょうか。市民は、久保田市長の方針に反対なのでしょうか。副市長は、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

久保田市長が就任して最初の議会だったと思うんですけども、解体の説明を私、させていただいたと思います。あと、旧東北電力ビルと宮田ビル、同時解体をまず先行して進めると言ったときに、施設の計画の見直しについては、市長選挙で選ばれた皆さんの民意だというふうに私はここで申し

上げたというふうに思ってます。私はそのように認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

議会で債務負担行為を認めたということですが、市長選挙を経て、計画の見直しを民意として、市民の声で汎用性のある広場空間をつくるとしたことは、久保田市長の英断だと私は思います。仮にほかの方が市長になられても、当初の予算で旧東北電力ビルを解体して、工事が完成できたかどうか。建設費アップを考えれば、本体工事も建設できない状況となる可能性は大きかったと思います。これ、中止してよかったんじゃないですか。これまでの経緯をよく知る副市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

いろんな考え方が、市民の皆さんの中にもあろうかというふうに思っています。それで、今回は選挙の結果で、そういった施設の建設を見直すということが掲げられた久保田市長が当選されたということですので、その考えを職員のほうも受け止めて、計画を見直して、また新たな計画のほうへ進んでいくと、そういった形で今進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

あその場所、新幹線駅前の一等地、角地を塩漬けの土地としないと言ったのは副市長です。そうですね。

しかし、議会では、特別委員会を設置しておきながら、それぞれに質問し、意見を言って、まとまらない。早く進める動きがない、近隣住民との意見交換すらないと、近隣の方から言われています。

そういった状況の中ですが、一刻も早く危険建物を解体してください、副市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

いろんな長期間にわたる経過がございましたが、今回、仮契約まで至っております。そういったことを踏まえて、今定例会で契約締結の議案を提出しておりますので、一刻も早く解体するために、議員の皆様の賛成をお願いしたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

次に、教育長が市民ニーズがあるとした面積450平米の屋内遊戯場と、その代替案について伺います。

その広さの根拠は、上越市の子育て施設が450平米だからということでしたか、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

屋内遊戯場の450平米というものにつきましては、こちらにつきましては当初の計画の中では300平米といった形で計画を、今、旧東北電力ビルを計画地に含めないといった状況の中では300平米ということで計画をさせていただいておりました。それを令和3年度に、各種の団体さんとの懇談を踏まえる中で、やはり屋内遊戯場の広さは300平米では足りないのではないかといいところを踏まえまして、隣の旧東北電力ビルも敷地とする中で450平米に拡大をして、進めてきたといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

人口、財政、子供の数が減少することを考えれば、高額な工事費と多額な運営費の支出は大きな市民負担となります。

ただ、私が出た住民懇談会で、市長から450平米の屋内遊戯場と発言があったと記憶しており、450平米必要かなと思いつつ、もしそうなら、既存のビーチホールまがたまのホールが450平米、能生マリンドリームホールが300平米、屋内遊戯場アクアホール、これはかなり広いし、糸魚川総合病院の旧なでしこのホールが約250平米ですので、常設とせず、ローテーションで使うとか、運営方法は様々ありますので、それじゃ駄目なのかを、市長の案と比較し、市民から納得解を得る必要があると考えます。この点、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

450平米というものにつきましては、当初計画を踏まえた形ということで、私どもとしては

そちらを目指して進めていきたいというふうに考えております。

今、議員おっしゃられる複数の施設、市内でございます。そういったところの利活用といったところも、今現在、アソビバというところで単発的に実施をさせていただいている中では、そういった部分の施設も利用させていただくこともございますけれども、今回、屋内遊戯場でやはり子育ての拠点的な施設ということで、常設といったところを目指していきたいというふうに考えておりますので、既存の施設で、利用者が多くあるような施設につきましては、なかなかそういったところの調整も難しいと考えておまして、また、そういったところを踏まえながら検討させていただきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

答弁を聞いて、私は思うところにですね、駅北大火で被災した場所にわざわざ子育ての屋内遊戯施設を造ることもなく、計画はそもそも無理があったのではないかと。冷静に考えれば、そうだと思いますか、靄本教育長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

無理があったのではないかと、もともと無理があったのではないかと、教育長どう考えるかというようなご質問だと思います。

駅北大火復興の関係の中で、一連の流れの中で、いろんな話し合う場面があり、そしてまた、皆さんと一緒に審議をする機会があったりして、1つずつ前に進めてきたという経緯があります。結果的に、今振り返ってみたときに今現在の立ち位置に立っているわけですがけれども、もともと無理があったのではないかということに関しては、やっぱりそれはちょっと内容的には、私はいかなものかというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

いかなものかとお考えのところを、もう少し聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

今までのその話合いの中で、いろんな方々が意見交換をしながら、そしてその中でもって方向性を定めて、一歩ずつ進めてきたという経過があります。その時間的な流れの中で、今現在こういった立ち位置に立ってるわけですが、もともとの一番最初の原点に戻って、大変そのときには無理があったのではないかということは、今、時間的な経過があったからこそ、そういうふうな考えの物の見方というのができるんだらうというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

まとめます。

市長選挙を経て、計画見直しを民意とした市長が、箱物建設と10年間で5億円の外部委託を中止し、いま一度市民の声を聞いて、汎用性のある広場空間をつくってまちの復興を進めることは、民意だと思います。齋本教育長は、それを民意とは思わないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

齋本教育長。〔教育長 齋本修一君登壇〕

○教育長（齋本修一君）

お答えいたします。

私は市民の民意の気持ちみたいなものについては、最大限尊重したいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

では、縮充のまちづくり、続いて、令和8年度予算編成と行政改革について再質問させていただきます。

縮充において、ジオパーク戦略プロジェクト実施計画の見直しは必要です。何年間にも及ぶ多大な費用を見込んだ実施計画は、そもそも何のためか、市民のためになるか疑問があります。米田市長が熱心に取り組んだジオパークですが、これまでと同様に進めていくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ジオパーク活動は、現在第3期の戦略プロジェクトに取り組んでいる状況でございます。ご質問のように、久保田市長が掲げる縮充において、これまでと同様に進めていくのかという部分につきましては、ジオパークの関係団体との連携したジオパーク活動の推進の基本方針、この部分は変わ

らないものと考えておりますが、現協議会長であります久保田市長の考え方も反映して、見直す部分は見直し、より推進する部分は推進していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

ジオパークの理念ですとか、それから構成ですか、子供たちもよくこの糸魚川市を理解したと思うんですね、ジオパークを通じて。これはよかったと思う。

ただ、殊さらに世界ジオパークを前面に出さずとも、糸魚川市がシティプロモーション戦略で打ち出した石のまちのイメージを膨らませて、市民活動と結びつけて来訪者を増やし、結果として世界ジオパークの承認につながる。こういった文脈にするべきと考えますが、いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石のまちというキーワードは、非常にインパクトが強かったと思っております。現在、海岸線で石拾いをされる方も、昨今のマスコミ報道の影響で非常に増えているというのが現実かと思っております。石のまちという部分の根底には、やはりジオパークが位置づけられているというふうに思っていますので、ただ、議員ご指摘のようにターゲットに応じて、刺さる、ジオパークが刺さらない方もいらっしゃると思います。そういった部分での使い分けも検討が必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

そのとおりだと思います。

それでジオパーク活動は、行政主体から民間活動へ移行すべきと考えます。

そこで、今回の組織機構の見直しでジオパーク推進室は残すのか。残すとしたら、人員配置はどのようなになるか。ジオパーク協議会への負担金は継続するのかなど、縮充の考えからするとどうなりますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

組織というところのところ、こちらのほうからお答えさせていただきます。

ジオパーク推進係は残りますけれども、室は廃止するという考えでおります。

人員配置につきましては、現在の業務量、またほかの業務量も勘案して、これから決めることに

なります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ジオパーク協議会への負担金につきましては、令和8年度予算編成作業中ではありますが、現状では例年同規模の要求を行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

そろっとジオパーク一本やりから卒業しませんかね。でないと、新しいことを始められませんよ。

縮充のまちづくり、市民の意見を聞いて進めるまちづくり、住民懇談会での市長の説明と答弁が、市民の評価を得ています。久保田さんなら糸魚川を変えてくれると、多くの市民が期待しています。行政改革は一朝一夕に進まないものと認識しますが、頑張ってください。

では、質問の3、全国の先進事例に学び、糸魚川市が先進地となるまちづくりの推進で、お願いします。

前回の質問の続きで、1つ、汎用的な利用の広場の設計は、利用者市民の話をちゃんと聞いてくれる実績のある人、センスのよい空間を考えるデザイナーにお願いしてください。市長にお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

当初の整備計画においては、担当課のほうでしつらえながら対応させていただきますけども、その後の利用計画等、また利用の在り方については、そういうふうな有識者、また、実績のあるデザイナーの方々からのご意見を伺いながら、利用の展開については進めていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

今できたものを振り返って、あそこが悪いとか、もう言ってもしょうがないんですけども、私も言う気もありませんが、ただ、やはり市民からはですね、復興まちづくりで造ったものが、いかがだったですかねという声は、今も聞きますので、今日、改めて訴えているわけなんですけども。や

はりセンスのいいまちだというふうに、一目で分かっていただけのような、そんな取組をお願いしたい。

それともう一つ、市長の掲げる、市民の声を聞いて進めるまちづくりです。

それで、被災者、市民の皆さんと、1年間しっかりとワークショップをして、汎用的な利用についての合意形成を図り、納得解を出して示していただきたい。市民の納得、納得解、久保田市長ならばと期待をいたします。その点、市長にお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

今回の広場計画にあっては、いろんな方々との意見交換もさせていただきました。糸魚川市で自主的に活動している、まちなかプレー広場を運営したいという方々、また、木を題材にした取組をしている3Mと言われるような方々、そういう中で、子供たちの発想力を豊かにするような取組をしていただけるといふ方々の、やっぱり活動と協働しながら進めていくような考えを持っております。そういう部分では、いろんな方々が参画できるような広場の活用方法について、順次進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

子供たちの豊かな発想を引き出すというのは、これ計画段階からやらないとね、できたものに、さあここで自由に遊びなさいって、いやもうできちゃってるわけですから。なのでですね、設計の進め方を1つご提案したいと思います。

ぺらぺらの図面ではなくて、模型で設計をして、議会と市民に示してください。谷村美術館を設計した建築家、村野藤吾は、イメージ模型から実施模型まで段階に応じた何種類もの模型を自分で作りました。なぜなら、それが施主にも工事業者にも分かりやすい、説得力ある方法だからです。

広場だけでなく近隣も入れた100分の1スケールでいいので、ジオラマの広場模型を作って、子供たち、大人たち、近所の高齢者、それぞれから遊具や広場のパーツ、模型を動かしながら、どんなふうに遊びたいのか、どんなふうに使えるのか、ストーリーを聞いてみてください。箱庭療法に近い手法ですが、皆さんそれぞれに行ってみたくなるスペースを考えて、それを基にみんなの広場、汎用的な広場を造っていきましょうという提案です。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

大変貴重なご提言だと思っております。私自身、糸魚川白嶺高校が、建築業界の方々に授業を受け持ってもらったときに、そういうふうに立体的な作業をして、構造物を作ったりとかしていたのを、私自身、授業の中で拝見したことがあります。そういう高校生たちが取り組んでいるものも含むとか、やっぱりプロの仕様のものだとか、そういうものはあります。それについて、また担当課のほうにそういう検討をして、できるだけ多くの方々が、そういうプレーパーク、プレー広場というものについての、やっぱりストーリー化ができるように、進められるように取り組んでいきたいと思っております。またいろんなご意見もあると思いますので、そういう部分で、ぜひ意見をお聞きする中で、いいものは取り入れていきたいなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

時間少ないですが、紫波町オガールプロジェクトと、ひづめゆの事例を紹介します。オガールプロジェクトでは、エリアの中に軸線をつくる道路と中庭と雁木通路、周辺を囲む建物、夜景から感じるすてきな雰囲気などを見て、参考にさせていただきたいと思います。

私たちが視察に行ったときは、若い人がデートしていましたが、これが大事なポイントです。また近隣の商店街の一角の旧庁舎跡に、公民連携でサウナ施設とコンビニの複合施設があります。久保田市長のアイデア、宿場町の銭湯の参考になります。なぜサウナとコンビニの複合施設なのか、造った理由、公民連携の仕組み、建設と運営について、このプロジェクトのマネージャーさんをお招きして、一度お話を聞いてみませんか。紫波町オガールとは違う、糸魚川の再生プロジェクトの納得解となるヒントを聞くことが期待できます。いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、先進例については、非常に重要だと思います。先般、議員の皆様が視察に行ったところのお話も聞かせていただきましたし、私自身、既に紫波町のオガールプロジェクトという本を読ませていただきまして、やっぱりこのプロジェクトを進める上でのいろんな進め方については参考になるなと思っております。

ただ、糸魚川市において全てが参考になるのかどうかについては、こちらに置いておきながら、やっぱり貴重な先進事例については、大いに参考させていただきたいと思います。

まず、そこで私はこの本を見たり、またいろんな先進例の本を見たり、また先般、研修会で来ていただいた産業能率大学の教授の方からの、また研修会等も含めて考えたところにおいては、やっぱりあらゆる情報、いわゆるコンテンツがそこにある。そのコンテンツによって、目的を持って造っていくということが重要であるという部分が、やっぱりどこの本に、どのような先進例があったとしても、またいろんな有識者の意見を伺った中にも、やっぱりそのコンテンツからのやっぱり目

的を持ったつくり方というのを大事にしてるといことです。その情報をどれだけ我々が取り入れることができるのか。先進地への視察もそうですし、またいろんな今は情報が取りやすい時代になってきてますので、そういう部分で担当課含めて庁内で、そういう情報収集については引き続き行っていければと思っております。非常に参考となる本については、いろんな部分で、またこういう本があるよという部分を聞かせていただければ、私も読ませていただきたいと思いますと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

北川正恭先生がですね、いい事例見たら徹底的にパクれと言うんですね。徹底的なTTPだつて言うんですよ。なので、いいところはパクる。しかしながら、糸魚川は糸魚川の条件がありますから、おのずとそこに独自性は出てくると思うんですが、問題は、そこまで行けるかどうかだと思うんですね。

久保田市長は、飛騨のほうとか行かれてると思うんですけど、少しその辺りお聞かせいただけませんか、どんなところが参考になるかということ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

それぞれの都市の首長さんの考え方というのは、非常に大いに参考になるところでありまして、私は北海道の北広島市、エスコンフィールドを造ったところに行ったときには、やっぱり未来創造型という発想で、エスコンフィールドを誘致して造ってきた。町全体、北広島自体が今すごく、町としては注目されてる町になってきた。

また、今ほどおっしゃいました飛騨市においては、飛騨の市長さんは課題解決型のまちづくりをしていて、いろんなところの、町の隅々まで自分で見て歩いて、ここをこうしたらいい、こうしたらいい、それがまた、民間の方々の協働によって進められているという点、それと歴史文化を必ず大事にするという点が参考になったということでもあります。

その両極端の2つの都市があるわけでありまして、私自身は、糸魚川市としてはどちらかというところと課題解決型に近いのかなと。ただ、未来創造型としては糸魚川にはすごくいい資源がある。そういう未来創造型に関する事業だとか予算の使い方だとか、それを可能にするだけの財源を確保するという課題を進めながらやっていけば、糸魚川ならではのまちづくりができるんじゃないかと思っております。

そういう中で、時代の先を読み解いて、常にアップデートをし続けて、価値あるアイデアを生み出していきたいというふう考えておりますので、いろんな市民の皆さんをはじめ、議員の皆様からもそういうアイデアを頂戴させていただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

市長に置いていかれないように勉強したいと思います。

さて、この機会に違う観点からのまちづくりの話をしてします。

質問にある、先進事例に学んで生かす。これできそうで、できないんです。それはなぜか。先進地成功例を見て話を聞いても、その苦勞を知れば、大変そうだからと理由をつけて、やめようという意識です。これが足を引っ張り、熱を冷ましてしまう。アリバイ作りに、人、金、時間を使い、責任は誰も負わない。これは、どの町にもあることだと思います。そう言って諦めてしまえば、お先は真っ暗ということなのですが、そのツケはどこに回るのでしょうかということが、組織の中ではあるよねという一般論です。

さて、糸魚川市の若い人たちはどうですか。割り切り早く、クールなZ世代とか聞きますが、情報を得て、様々な経験をする中で、何らかの目覚めを得ていくことは、かつて我々もそうであったように、今の若い人たちも同じではないかと期待をいたします。

世代を超えて一緒に働いたり楽しんだり、これもまちづくりと考えれば、かつて糸魚川の街なかにあった楽しみ、街なかならではの娯楽とか居場所とか、若い人が再生していけば、町に若い人がやってきて、にぎわうと私は思います。時代とともに情報技術やコミュニケーション方法が変化しても、にぎわいをつくるコンテンツは時代を超えて再生し、繰り返されているように私は思います。宿場町のDNAで、まちの再生、若い人たちの話を聞いて、ぜひ実現したいです。

ただ、時間がかかります。10年なんてあっという間です。だから、今、若い人たちが活躍できるようにしてくれるリーダーの知識、感性、発想力、行動力、情報発信力など、とても重要ではないかと思います。市民は、それを久保田市長に期待しています。市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、これから私たちが、糸魚川市のまちづくり、人づくりを進めていく上で、いろんな過去の先人が歩いてきた足跡というものに振り返るべきだと思います。

このたび「還元録」という相馬御風さんの書いた本、それは34歳にして糸魚川に戻ってきた。やっぱり34歳、もうやっぱり現役バリバリのときに、都会から糸魚川に戻ってきた。そして、その生涯をこの糸魚川にささげたという方の先人例。

そういうことで、糸魚川に、またIターン、Uターンで戻ってこれるような、やっぱりまちづくりをするということが必要であると考えています。そういう先人の思いを我々がどうやって受け継いで、それを実現させていくのかという部分については、本当に市民一体感となって取り組んでいくべきだと思います。

また、私も一市民のときにこの議会を傍聴させていただいたときに、古畑議員が、イトヨプラン

というようなことの発想を聞いておりました。まさに、イトヨプランという、ここで生まれて育った人間が、どうやって糸魚川で再び暮らしていく、また持続して暮らしていくのかという部分を我々がやっぱり身をもって、これから考えていく時期に差しかかってくるのではないかと思っております。ぜひこれからの糸魚川づくりは、皆さんと共に進んでいければと思っておりますので、ご理解をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

全く同意見でありますし、それを今後どう進めていくかということではありますが、今回の一般質問でも、池田議員、東野議員、加藤議員ほか、若い議員の皆さんの発想に学び、市民の声でまちづくりの現場にいることを私は実感しています。いただいたまちづくりの提言を、市長行政と議会で一体で進められたら、糸魚川の未来は明るいと思えます。共に頑張りましょう。

終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

関連質問する時間なしと認めます。

関連質問なし。

以上で、田原 実議員の一般質問を終了いたします。

それでは、11時15分まで暫時休憩いたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。〔10番 田原洋子君登壇〕

○10番（田原洋子君）

おはようございます。田原洋子です。

冒頭、このたび大分市佐賀関、また中学校の相互交流がある姉妹ジオパークの香港で発生した火災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方のご冥福と、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

それでは、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、ジェンダー・ギャップとアンコンシャス・バイアスの意識改革による働きやすい職場づくり